

自公 歴史的敗退 国民の審判下る

「建設的野党」の役割増大

選挙結果について

2009年8月31日 日本共産党
中央委員会常任幹部会

(1) 前向きの一步を歓迎

30日に投開票がおこなわれた衆議院選挙で、国民の暮らしや平和を壊してきた自民・公明政権が、国民のきびしい批判を受け、歴史的な大敗を喫し、自公政権は退場することになりました。自民党は、119議席へと公示前の勢力を3分の1に激減させ、公明党も31議席から21議席へ大きく後退しました。

わが党は、どんな問題でも自公政権と真正面から対決をつらぬき、今度の選挙では、「自公政権を

退場させよう」と訴えつづけてきました。有権者・国民がくだしたこの審判を、日本の政治にとっての大きな前向きの一步として歓迎するものです。

(2) 9議席確保 得票前進

日本共産党は、比例代表選挙で9議席を獲得し、現有議席を確保することができました。また得票では、投票率が上がるなかで、得票率は前回総選挙の7・25%から7・03%に後退したものの、得票数では491万9千票から494万4千票へと前進させることができました。

この選挙戦でわき起こった風は、「自公政権ノー」の風であり、根本からいえば自民党政

治が崩壊する過程で起こっている風です。それは、日本の政治を前に動かす流れです。同時に、この流れが、「二大政党」の「政権選択」という大キャンペーンのもとで、民主党への支持の大きな流れとなり、党の働きかけが弱いところでは、これまでの党の支持層にもそれは及び、日本共産党の前進をはばむ大きな“圧力”となったことも事実でした。

そうした激しく難しい条件のもとで、わが党が現有議席を確保し、得票数で前進したことは、善戦・健闘といえる結果です。私たちは、ご支持をお寄せくださった国民のみなさん、猛暑のなかを大奮闘してくださった党支持者、後援会員、党員みなさんに、心からの感謝を申し上げます。

(3) 「建設的野党」論戦に共感

私たちは、東京都議選



の結果をふまえて、7月16日に幹部会声明「自公政権を退場に追い込む決定的な“審判”をくだし、新しい日本の進路の“選択”にふみだす選挙に」を公表し、この方針にもとづいて政治論戦を展開しました。

自公政権に強い批判と怒りをもつ国民と気持ちを共有しながら、ともに21世紀の日本の進路を探索するという姿勢で、この選挙戦をたたかいました。とりわけ選挙後の新政権のもとで「建設的野党」と

して奮闘するという立場を鮮明にしたことは、国民の共感を広げました。こうした政治論戦は、広い国民の気持ちにそった攻勢的な訴えとして、善戦・健闘を支える大きな力になったと考えます。

(4) 新しい日本の政治へ

総選挙の結果、「建設的野党」として日本共産党が果たすべき役割はいよいよ重要となっています。わが党は、選挙公約を実現するために、国民運動と共同



■衆院選党派別当選者数

2009年8月30日投票	新議席		公示前		前回		小選挙区		比例代表	北海道	東北	関東	北関東	南関東	北陸	近畿	中国	四国	九州	沖縄
	議席	次期	議席	議席	議席	議席														
日本共産党	9	9	9	0	9	0	1	1	1	1	1	0	1	3	0	0	1			
民主党	308	115	113	221	87	4	7	10	8	11	6	12	11	6	3	9				
自民党	119	300	296	64	55	2	4	6	5	6	4	6	9	4	2	7				
公明党	21	31	31	0	21	1	2	2	2	1	2	5	1	2	3					
社民党	7	7	7	3	4	0	1	0	1	0	0	1	0	0	1					
みんなの党	5	4	—	2	3	—	0	1	1	—	—	—	—	—	—					
国民新党	3	4	4	3	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
新党日本	1	0	1	1	0	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
新党大地	1	1	1	—	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—					
諸派・無所属	6	7	18	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					
合計	480	478	480	300	180	8	14	20	17	22	11	21	29	11	6	21				

甲良民報

2009年9月6日 428号
発行責任：日本共産党甲良町支部
代表：西澤伸明 甲良町在土 463
Tel.Fax38-4949

してあらゆる力をそそぎます。民主党中心の政権にたいして、「良いことには協力、悪いことにはきっぱり反対、問題点はただす」という立場で、どんな問題でも国民の利益にたつて積極的に働きかけ、現実政治を前に動かすために奮闘します。

同時に、「財界中心」「軍事同盟中心」という旧来の政治の問題点を根本からただし、「国民が主人公」の新しい日本へと、日本の政治をさらに前にすすめるために力をつくします。今回の選挙で、国民は「自公政権ノー」のきびしい審判をくだしましたが、それが民主党の政策・路線を積極的に選択した結果とはいええないことは、各種の世論調査などでも明らかです。終焉(しゅうえん)した自公政治に代わる、新しい日本の政治は何か。国民の模索と探求はつづくでしょう。私たちの日本改革の方針こそ、それにたいする最もたしかな回答だということ、新しい政治局面のもとで、広く明らかにする活動にとりくむものです。

(5) 大きな党づくりの必要痛感

選挙戦全体をふりかえって、強く大きな党づくりの必要性を、私たちは痛感しています。どんな複雑な政治情勢のもとでも、自力で前進を切り開く実力をつけよう

この決意で、私たちは、この間、さまざまな努力を重ねてきました。国民の要求にもとづくたたかい、「綱領を語り、日本の前途を語り合う大運動」、党勢拡大運動などで、さまざまな新しい前進の萌芽をつくりだしてきました。しかし、この努力の到達点はまだ初歩的であり、前進の途上にあります。

新しい政治情勢のもとで、日本共産党の果たすべき国民的役割は、ますます大きく

なるでしょう。私たちは、その役割を担うにふさわしい質量ともに強大な党をつくりあげるために、ひきつづき全力をあげて奮闘するものです。

(文中の小見出し = 西澤)

9月議会はじまる

公平・生活重視を

主に平成 20 年度の各会計決算などが審議される 9 月議会について、3 日議会運営委員会が開かれ、会期は 25 日までとし、下記の日程で確認されました。会期は 9 日の本会議で正式に決まります。

8 日(火) 9:00 全員協議会

9 日(水) 9:00 開会 議案提案など

11 日(金) 9:00 一般質問

15 日(火) 9:00 予算決算常任委員会

17 日(木) 9:00 予算決算常任委員会

18 日(金) 予算決算常任委員会予備

25 日(金) 9:00 閉会

11 日 一般質問

木村議員、宮寄議員、藤堂与三郎議員、西澤議員、建部議員の順です。

西澤議員は、山崎町長の基本姿勢を問うとして生活重視、農産物の価格保障制度の導入などを求めます。公平・公正な入札制度を求めて、町内業者の共同化の努力とともに、7 月の「談合情報」の疑惑に答えるべき、と迫ります。ふるさと交流村拠点施設は農業生産、運営母体、経営計画などが整わない内は「凍結宣言」を、と提起します。

日本共産党 甲良町でも健闘 得票数・率とも前回より前進

町民のみなさん、ご支援ありがとうございました。

甲良町内でも民主党が得票率 43%と過半数近くを占め、前回比 123.5%に伸ばして、自民は 96.6%、公明が 76.7%、社民が 57.6%、国民新党に至っては 15.3%に軒並み減らす中で、日本共産党は 116.2%と前進することができました。

自公政権に対するごうごうたる非難の票が「政権交代」を掲げる民主党に集中した中で、こ

のような得票を伸ばしたことは、今後に生きる励みとなるものです。

「民主党もこれからが大変や！公約実現できるか国民はしっかり見るしな！」とのある町民の声に象徴される意見は、民主党の財源や外交などでのあやふやさ、危うさを多数の国民がすでに見抜いている表ではないかと思われま

す。どんな複雑な情勢の中でも国民・住民の利益を守って前進できる強く大きな党づくりが必要だと痛感しま

甲良町開票区での各党の比例得票数

	今 回				前回 (05 年)	
	得票数	得票率	前回増減	得票前回比	得票数	得票率
日本共産党	319	7.51	45	116.2%	274	6.82
民主党	1857	43.75	354	123.5%	1503	37.43
自民党	1430	33.69	50	96.6%	1480	36.88
公明党	321	7.56	97	67.7%	418	10.41
社民党	121	2.85	89	57.6%	210	5.23
新党日本	20	0.47	110	15.3%	130	3.24
国民新党	44	1.03				
改革クラブ	9	0.21				
みんなの党	95	2.23				
幸福実現党	28	0.65				

有権者数 6,443 投票率 68.32% 有効投票数 4,244 無効票数 158